

# 西日本豪雨の経験を経て、地域とともに創る防災学習



岡山県立倉敷まきび支援学校  
金島 一顯



- 
1. プランの目的
  2. 安全で落ち着いて避難ができるために  
新しいヘルプカードの活用
  3. 特別支援学校防災対応アプリの開発
  4. 今後の課題

# 1. プランの目的

西日本豪雨から7年が経過し、地域ぐるみの避難訓練や防災訓練、学校ごとの避難訓練が実施され、着実な復興や防災体制の構築につながっている。昨年度は、まびふれあい公園が完成し、地域の防災拠点もできた。近年、真備地区で徹底的に行われてきた洪水や河川の氾濫に対する防災訓練だけでなく、地震や豪雨による土石流災害等の様々な防災対策が必要とされている。どのような災害がおきても、箭田地区に生活するすべての人々が安全に避難行動をとり、避難生活を送ることができるときに必要な情報ツールを活用して避難訓練を実施したり、現状の課題解決のできるツールを開発したりすることを目的とした。

## 2.安全で落ち着いて避難ができるために 以前の地域の共通ツール(ヘルプカード Vol.1)



受付カード

ふりがな:

名前:

掲示板へ表示 します  
(に) しません

切り取らない

掲示カード

ふりがな:

名前:

よければ  
写真

掲示していい内容を記入

やたけ家のヘルプカード  
避難行動編

【目標 みんなで助かる!】  
令和2年度(2020年) Vol.1.0

いつ逃げる?

レベル2で スイッチオン!!  
レベル3で 連絡を取り合い、  
避難開始!

どこに逃げる?  
※優先順位

① ( )  
② ( )  
③ ( )

逃げる手段  
※を入れる

車で(① / ② )  
歩いて 車いす  
リヤカー  ( )

誰と逃げる?  
※を入れる

① \_\_\_\_\_さんと 声がけて  
② \_\_\_\_\_さんと 手をとって  
車で同乗

※避難生活のための情報は内面に記載

やたけ家のヘルプカード  
運用ルール

- ・「みんなで助かる!」ためにまずは自分のいのちを一番に考え、自分の責任のもとに活用します。
- ・本カードの「避難行動」は水害時を想定し、「マイタイムライン」と同じ基準で考えます。特にハザードマップ上で浸水想定区域内に居住する人は注意深く、支援する人も支援を受ける人も互いに災害情報を共有し、声をかけ合い、早期避難を徹底します。
- ・本カードの「避難行動」は緊急避難場所として安全な場所への移動までを考え、「避難生活」は被災後に自宅を離れた避難所などで生活する場合や、自宅での在宅避難生活など生活(暮らす)ことを考え、箭田地区に暮らす全ての人が本カードを活用します。
- ・本カードはの作成運用を通じて「箭田のあったかまちづくり」を推進し、医療、福祉との連携を深め、毎年防災訓練で活用した後で必要に応じて見直しを行います。



※このイラストは倉敷まきび支援学校にご協力いただきました





# まびふれあい公園への避難訓練の実施 (地域の方とともに) (2025年10月21日)



## 2.安全で落ち着いて避難ができるために ヘルプカード Vol.2を活用した地域防災研修 (9月11日、10月9日、11月11日、12月11日、1月27日)



## 2.安全で落ち着いて避難ができるために ヘルプカード Vol.2を活用した箭田地区地域連携防災訓練 (11月23日)



**11月23日(日) 箭田地区地域連携防災訓練のご案内**  
南海トラフ巨大地震が午前7時に起こったと想定

■午前8時から  
伝達訓練

所の一時的避難場所へ集まろう!

■午前10時~13時

地域本部

地域交流イベント

フリマ

受付

終わったら

箭田分館で、「災害情報センター」立ち上げ訓練

楽しく! みんなで集まろう!

裏面も見てね!

主催: 箭田まちづくり連合防災会・箭田まちづくりスクラム班

お問い合わせ: 090-4653-1150

雨天中止

A detailed poster for the disaster drill. It features several illustrations: a group of people in hard hats, a person at a reception desk, a dog, and people at a table. The text is arranged in a clear, organized manner with large fonts for key information.

## 2.安全で落ち着いて避難ができるために ヘルプカード Vol.2を活用した箭田地区地域連携防災訓練 (11月23日)





### 3. 特別支援学校防災対応アプリの開発

防災研修 「登下校時に地震発生した場合のスクールバスの安全確保」

8月28日(木)



- スクールバスの避難場所は、みんなで共有できた。
- 携帯電話が繋がらないときはどうするの？

### 3. 特別支援学校防災対応アプリの開発 アプリ開発協力企業「ビジネスセンター岡山株式会社」様との出会い (11月23日)

#### 《企業概要》

- 1973年創業、岡山に本社、東京・京都に展開する ITサービス企業。
- システム開発・アプリ開発・ITコンサルティングで企業や自治体のDX(デジタル変革)を支援。
- Android・iOS アプリ開発にも豊富な実績があり、企画から設計・構築・運用まで総合的にサポート。

#### 《防災分野での取り組み》

- 地域の防災訓練において、顔認証技術を用いた避難所受付アプリ「My Shelter」を展示・実証。
- 災害時の受付・本人確認を効率化し、混雑緩和や運営負荷の軽減、安全性の向上に寄与するアプリ開発実績を持っています。
- 障がいのある方など多様な利用者に対応したシステムデザインを採用し、「誰一人取り残さない防災」の実現を目指しています。

#### 《当社の強み》

- ✓ 長年のシステム開発・アプリ開発実績
- ✓ DXで自治体・企業の課題解決を支援
- ✓ 防災現場での実証経験あり
- ✓ 多様な利用者に対応した設計・開発



### 3. 特別支援学校防災対応アプリの開発 アプリ開発打ち合わせ会の実施 (12月11日、12月22日、1月7日、1月27日)





# Evac Navi

特別支援学校向け 避難情報共有アプリ

すべての児童を、確実に安全な場所へ

災害発生時の児童引き渡しを、安全かつ効率的に

# 支援が必要な児童の安全確保を最優先

## 特別支援学校の課題

-  児童の特性に応じた配慮が必要
-  送迎車両が広域に分散
-  引き取り者の確実な本人確認
-  保護者以外の引き取り者が多い



## Evac Naviが解決

-  プッシュ通知で即座に情報共有
-  リアルタイム位置追跡
-  QRコード/顔認証で確実な本人確認
-  ハザードマップで安全な避難先を案内

# 主要機能



## 緊急アラート

全関係者に即時通知  
地震・津波・火災・洪水



## リアルタイム追跡

児童の所在を常時把握  
在校/車両中/避難所/引渡済



## QRコード認証

確実な本人確認  
引き取り者を安全に認証



## ハザードマップ

津波・洪水・土砂災害  
危険エリアを可視化



## 音声ガイダンス

ひらがな読み上げ  
児童を避難所へナビ



## オフライン対応

災害時も安心  
事前DLでネット不要

## 4つのユーザー × 専用画面



### 保護者

- お迎え情報を登録
- QRコードで引き渡し
- バス位置をリアルタイム確認
- 多言語対応 JP/US/VN/CN



### 教職員

- 緊急アラート発報
- 児童所在を一覧管理
- QRスキャンで引き渡し確認
- 安否確認の集計・管理



### ドライバー

- 緊急時の移動可否を報告
- 乗客の安否を報告
- 位置情報を自動送信
- 車両インシデント報告



### 児童

- 大きなボタン (64dp+)
- ひらがな読み上げ
- 避難所ナビゲーション
- 絵文字で気持ちを伝える

# 実際の画面イメージ



 教職員画面

児童状況サマリー  
・全員45人中40人が安全  
・車両中3人、引渡済2人

車両・お迎え状況を  
リアルタイムで把握



 保護者画面

## 4. 今後の展開

- ・特別支援学校防災対応アプリ (evac-navi) の開発することができた。
- ・今後、児童生徒等が自分の身を守り、自分のことを伝え、どのように活用できるか実績を重ねたり、地域の避難訓練や登下校時の避難訓練等で活用したりして精度を高め、全国の特別支援学校やスクールバス等を利用している学校で活用できるようにしていきたい。



# 高等部3年生 防災・減災学習(地域の方とともに)



・毎年、真備町箭田地区のヘルプカードを活用した地震の避難訓練を行っている。

・体育館への避難の仕方を確認し、実際に新しいヘルプカードを使った体育館への避難を実践する予定(2月19日)である。

・ヘルプカードに挟んでいる受付カードを提出していたが、今年度は特別支援学校防災対応アプリ(evac-navi)を活用する予定である。

・平成30年の被災のとき、避難所の体育館の受付は大混乱した。そのことの改善のためのアプリを使用した実証実験を行う予定である。

・落ち着いて非難をした後に、簡易ベッドに寝てみたり、災害非常食の試食をしたり、避難生活体験も行う予定である。

